

科目名	ケア・マインド教育		科目名（英文）	Care Mind Education		
学部・学科	薬学部・薬学科	配当年次・学期	1年次・通年		クラス	全クラス
履修区分	選択必修	授業担当者	安原 智久、須野 学、伊藤 雄大、永田 実沙、村田 顕也、竹山 重光、岩村 龍子、橋爪 洋、佐々木 洋子		科目ナンバリング	P5001JA
関連科目	社会薬学Ⅰ、社会薬学Ⅱ、社会薬学Ⅲ、社会薬学Ⅳ、社会薬学Ⅴ、社会薬学演習、医療倫理、地域医療薬学Ⅰ、地域医療薬学Ⅱ、事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、病院・薬局実習					

<p>本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー</p> <p>医療従事者を志すものとして、病める人の視点で考えられる人間形成は必須である。また、行政・司法を含めた社会制度を知ることにより、個々の患者の社会的背景、支援の状況についての深い理解に到達することが可能とある。本科目では、医学部、保健看護学部、薬学部の共通講義として、立場の異なる医療従事者を目指す者が、前述の視点や理解に基づいた相互理解を求める。</p>

<p>ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力</p> <p>・人の健康に携わる職業である薬剤師として、より高い倫理観、社会人としての良識を備えているもの</p> <p>・単に知識、技能を獲得しているのみではなく、それらを統合的に活用でき、患者の社会的、心理的背景にも配慮することができるもの</p> <p>ケア・マインド教育は、薬学において高い倫理観、良識をもって患者の社会的、心理的背景にも配慮する精神を獲得するために基本となる姿勢と心構えを獲得する科目である。本科目で修得が期待できる基本的な姿勢と心構えは、医療従事者としての能力を統合的に活用する臨床でのパフォーマンスにつながるものである。</p>
--

<p>アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価</p> <p>本科目は、医療従事者としてのあり方を培う最も基本的部分となる。従って、授業内容の理解のみならず、参加姿勢や他学部および薬学部の他学生への接し方、コミュニケーションを取ろうとする姿勢を、将来の医療従事者としての適切性を規準に評価する。</p>
--

授業計画			
回	学習内容・課題	学習方法（場所）	評価方法
1	イントロダクション（薬学部のみ）：授業の概要と進め方、医療従事者としての基本事項	講義（講義室）	レポート・プロダクト評価、観察記録
2	オリエンテーション	講義（講義室）	レポート・プロダクト評価、観察記録
3	小児在宅医療（講義）	講義（講義室）	レポート・プロダクト評価、観察記録
4	小児在宅医療（GW）	グループワーク（講義室）	レポート・プロダクト評価、観察記録
5	緩和医療（講義）	講義（講義室）	レポート・プロダクト評価、観察記録
6	緩和医療（GW）	グループワーク（講義室）	レポート・プロダクト評価、観察記録
7	ダウン症（事前学習）	事前学習（講義室）	レポート・プロダクト評価、観察記録
8	ダウン症（講義）	講義（講義室）	レポート・プロダクト評価、観察記録
9	和歌山の人々の暮らし（講義）	講義（講義室）	レポート・プロダクト評価、観察記録
10	和歌山の人々の暮らし（GW・発表）	グループワーク（講義室）	レポート・プロダクト評価、観察記録
11	視覚障害者の世界（講義）	講義（講義室）	レポート・プロダクト評価、観察記録
12	視覚障害者の世界（GW・発表）	グループワーク・発表（講義室）	レポート・プロダクト評価、観察記録
13	B型肝炎（講義）	講義（講義室）	レポート・プロダクト評価、観察記録
14	B型肝炎（GW）	グループワーク（講義室）	レポート・プロダクト評価、観察記録

15	B型肝炎（発表1）	発表（講義室）	レポート・プロダクト評価、 観察記録
16	B型肝炎（発表2）	発表（講義室）	レポート・プロダクト評価、 観察記録
17	がん（講義）	講義（講義室）	レポート・プロダクト評価、 観察記録
18	がん（GW・発表）	グループワーク・発表（講義 室）	レポート・プロダクト評価、 観察記録
19	QOLを考える（GW）	グループワーク（講義室）	レポート・プロダクト評価、 観察記録
20	QOLを考える（発表）	発表（講義室）	レポート・プロダクト評価、 観察記録
21	事後学習（薬学部のみ）	グループワーク（講義室）	レポート・プロダクト評価、 観察記録
22	まとめ（薬学部のみ）	発表（講義室）	レポート・プロダクト評価、 観察記録

教科書
教科書は使用せず、適宜テキストを配布する。

参考書
特になし

評価時期
講演の聴講およびグループワークの姿勢に関する教員の観察記録およびグループワークにおけるピア評価（毎回）
レポート・プロダクトに対する教員の評価およびピア評価（各テーマごとに実施）
発表会でのプレゼンテーション引退する観察記録教員の観察記録（発表ごと）

評価方法
講演の聴講およびグループワークの姿勢に関する教員の観察記録およびグループワークにおけるピア評価（60%）
レポート・プロダクトの評価（30%）
発表会でのプレゼンテーション（10%）

評価基準
総評価の60%以上で合格。

学生へのメッセージ
本科目は生涯に渡って必要となる多職種連携に関する能力、および医療従事者としての精神を養う第一歩である。1年次においては、高い到達点を求める訳ではないが、医療従事者としての基本的資質を厳しく評価する。本授業に参加する際には、プロフェSSIONナルとして臨むよう心がけること。

担当者の研究室等
研究室502（安原）
オフィシアワー：毎週月曜日12:40～13:40 17:30～18:30

備考、事前・事後学習課題
本授業で求めるグループワークを円滑に進行するために、講演内容に関する予習復習（4時間程度）を行うことが望ましい。また、グループワークの時間内では不明点の解決に至らないことが予想されるため、自発的な情報の収集、評価、活用への7～10時間程度は取り組むことが望ましい。

